

公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 基本方針	
大阪ブロック協議会 会長 森岡 裕介	
ブロック協議会 理想の未来	己の可能性を信じ、理想の未来を切り拓く、誇れる大阪の創造 大阪は歴史的に商業都市として発展してきた地域です。また、大阪ブロック協議会の 28LOM に所属する 2000 名を超えるメンバーには可能性が満ちあふれています。万博開催年でもある 2025 年度は地域で活動する JAYCEE が地域を変える当事者意識をより一層醸成し、ブロック協議会と 28LOM が共に手を取り合い理想の未来を切り拓く誇れる大阪の未来を創造します。
ブロック協議会の 役割	大阪ブロック協議会の役割は大阪府下 28LOM の運動が地域において最大限の効果を発揮するために、本会、近畿地区協議会と LOM をつなぐ連絡調整機関です。まずは、28LOM に対して相互理解を深め良好な交流を図り、各 LOM が抱える独自の課題を認識し、課題解決のために必要な最適なツールを共有することが重要です。そのために、本会や地区協議会と連携し各 LOM との架け橋となるような連絡調整機関を目指し、LOM の発展に寄与します。
ブロック連携事業 (政策手法)	1.各地域における課題と質の高い運動の調査・発掘・研究
	大阪ブロック協議会は 28LOM を 4 地域に分けて地域別に会議を行う独自の運営をおこなっています。そのため、各地域の運動が 28LOM に展開されていないため、本会、近畿地区協議会と連携を図る大阪連絡調整会議を開催し、本会が推進する運動の共有を図るとともに、各 LOM における課題を調査・発掘・研究を行い、有益な情報を速やかに展開し全体最適化が可能な運動を各 LOM に情報共有し 28LOM における組織の発展と運動の最適化を推進します。
	2.地域に眠る活用しきれていない資源の調査・発掘・研究
	大阪府下の魅力あふれる地域資源を各 LOM においても地域に発信していますが、幅広く浸透していないのが現状です。各 LOM からの視点だけではなく外部の有識者や関係機関と連携し、地域資源の経済的な有効活用の可能性を広げることが必要です。大阪ブロック協議会が大阪府下 28LOM の地域資源の調査・発掘・研究を外部の有識者や関係機関と連携し、経済的な有効活用の可能性を広げるとともに好循環モデル創出を目指します。
	3.誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援
	大阪ブロック協議会では各 LOM において例会出席率向上を目指し、各 LOM のメンバーに対して当事者意識の醸成を図るとともに、JC の意義や目的を理解や運動構築のヒントを得るために、JC プログラムの JCI Achieve や JCI Impact を協議会主導で開催します。地域の課題を見出し、地域社会を巻き込んだ事業を行うための JCI アクションフレーム(JAF)を活用し、社会参加の概念や地域コミュニティのニーズの分析で運動構築のヒントを得ることを目的に本会と連携し各種プログラムを推進します。
	4.ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用
	28LOM の組織を活性化させるためには在籍するメンバーが共通の価値観を持つことが必要不可欠ですが、現状は JC 在籍歴 3 年未満が 50%を超えています。そのため、各地域の在籍 3 年未満のメンバーや JC プログラム未受講者を中心に、まずは VMV や JCI Discover のプログラムを活用し、各 LOM に共通して適用できる育成カリキュラムを本会と連携して実施するとともに、LOM の垣根を越え親睦を深める機会を創出し共通の価値観をもった人財育成の寄与を目指します。
	5.理念共感拡大グランドデザインの検証
	2025 年度で 5 年目を迎える中期計画の理念共感拡大グランドデザインが最終年度を迎えるにあたり、大阪府下 28LOM への現状把握と進捗調査を、大阪連絡調整会議を通して行います。そして、理念浸透サーベイの実施推進を行い各 LOM と連携を図り、本会が必要とする検証に必要な情報を収集します。ま

	た、5 年目を迎える理念共感拡大グランドデザインの目的達成を目指します。
ブロック協議会 独自の事業	1.持続可能な組織を構築する大阪連絡調整会議の開催
	【背景】 大阪府下 28LOM が抱える独自の課題を汲み取り、地域において最大限の運動効果を生み出すために 本会や近畿地区協議会との連携強化は必要不可欠であり、各 LOM との連携は未だ改善の余地がある と考えられます。 【目的】 2024 年度から新設した大阪連絡調整会議で得た情報を有効活用し、本会、地区協議会と連携し 各 LOM が抱える地域独自の課題を認識し、28LOM において課題解決と組織の発展、運動の最適化につなげま す。また、各 LOM との連携強化を図り、地区協議会、大阪ブロック協議会の理念共感を生み出し、成長 に繋がる支援に向けた情報共有の機会を創出することを目的とします。 【手法】 大阪府下 28LOM の抱える課題に対し、本会が持つ各 LOM 運動の最大化に向けた支援を本会と近畿地 区協議会と連携を強化し、議案構築に向けた有益な情報共有を行うことで、各 LOM に必要な支援が行 われるように会議を開催します。
	2.地域における運動の最大化を図る LOM 支援、人的支援の実施
	【背景】 大阪府下 28LOM 全体においての拡大は一定の成果が出ているものの退会者数の課題は未だ解決とは 言えないのが現状です。また、会員の定着率や各 LOM 例会出席率に関しても喫緊の課題といえます。 【目的】 小中規模 LOM に対し地域課題の解決に向けた運動の最大化を図るために、人的支援を行うことによっ て、LOM 内でのプレゼンスを上昇させる機会となり、会員の例会出席率、定着率を向上させることを目的 とします。 【手法】 LOM 内でのプレゼンスを高めるには、例会事業の質を向上させることが必須です。そのために、どういっ た人的支援が必要かを各 LOM に調査し、ブロック協議会内で最適な LOM 支援方法を選定し、目的達成 に向けた支援体制を構築します。大阪府下 4 地域の中から、支援対象の LOM を選定し、組織運営にお いての LOM 支援と例会事業においての人的支援の両輪で最適な支援を相互理解のもとおこないます。 また、必要に応じて、本会と連携し、持続可能な組織に向けた様々な運動を推進します。
	3.和の心を育み、好奇心あふれる未来へと繋がるわんぱく相撲大会
	【背景】 昨今、情報化の進展等により子どもを取り巻く環境が大きく変化していく中で、直接体験の機会が減少傾 向にあり、子どもの他者に対する関心が低下しています。直接体験を通じて人と人との交流の機会の大 切さに気付くことが必要です。 【目的】 勝ち負けに関わらず目の前の相手に挑戦することの意義を感じてもらい、礼儀礼節や感謝の気持ち、相 手を思いやる心、最後まで諦めない精神を学ぶことを目的とします。 【手法】 相撲を通じて礼儀礼節と感謝の気持ち、相手を思いやる心、最後まで諦めない精神を養い、好奇心が持 つエネルギーの可能性を向上させ、大阪の希望あふれる未来へと繋がる、わんぱく相撲大阪府決勝大 会を実施します

	4.地域の魅力を発信する大阪ブロック大会泉佐野大会の開催 【背景】 大阪ブロック大会は大阪ブロック協議会において最大の運動発信の機会であり、地域活性化と大阪府下 28LOM が一斉に集い地域の魅力の発信、地域の垣根を越えた交流によるメンバーの成長の機会となるが、大阪ブロック大会の効果を最大限に発揮するためには大阪府下での認知度向上と、より一層のメンバーの参加が必要であると考えます。 【目的】 地域にブロック大会という機会を提供することで、地域活性化と参加メンバーの地域の垣根を越えた交流による成長を目的とします。また主管 LOM とブロック協議会が協働し、大阪ブロック協議会における運動を幅広く大阪府下全体に発信することで、大阪を理想の未来へと切り拓くことを目的とします。 【手法】 大阪ブロック協議会の最大の運動発信であるブロック大会を泉佐野の地で実施し、泉佐野の魅力を中心に大阪府下の地域資源の魅力を発信するとともに地域交流や参加メンバー間の交流といった好循環を創りあげることによって、地域の未来を切り拓く機会を創出します。また主管・副主管 LOM が協力することで、地域益や社会益以外に、主管 LOM 益や参加者益・主催者益を追求していきます 5.大阪の可能性を秘めた魅力を伝える国際交流とビジネスの機会 【背景】 大阪府内の各地域には独自の文化や魅力ある地域資源が数多く存在しております。2025 年は大阪・関西万博が開催され非常に海外からも注目される年でもあります。世界中から多くの人々がビジネスの機会がある中で、青年経済人として国際交流の機会を創出することが必要です。また、ビジネスを活用した会員相互の発展と成長の機会を図り、ブロック協議会内の 4 地域 28LOM の垣根を越えた交流を図ることで協議会のプレゼンスを高めることが重要です。 【目的】 大阪府下の地域資源の魅力をいかし、国際交流の機会を創出するとともに、ブロック協議会内のビジネスを活用した会員相互の発展と成長の機会に寄与することを目的とします。 【手法】 大阪府下の魅力ある地域資源を活用し、関係各所と連携し、国際交流の機会を創出します。また、大阪府下 28LOM が参加できるビジネスの機会を提供し、各 LOM において会員相互の発展につなげ経済成長の機会に寄与し地域経済の活性化につなげます。 6.好奇心を育む JC カップ U-11 少年少女サッカー大阪予選大会の開催 【背景】 大阪ブロック協議会において、JC カップ U-11 少年少女サッカー大阪予選大会は青少年健全育成事業として 800 名程度の動員もあり、近畿地区協議会、本会とも連携を図ることのできるスケールメリットのある事業です。そのため、大阪府下の子どもたちがスポーツを通じて多くの大人たちの前で勝つ喜び負ける悔しさを学ぶ機会を創出するとともに、全国への機会に挑戦可能であるという大会であると認識させ好奇心を育む機会が必要です。 【目的】 好奇心という爆発的なエネルギーを秘めた子どもたちが、仲間と協力し同じ目標を共有し強い絆を育み、勝敗だけに拘るのではなく、互いに尊重し、相手を称え敬うことができる心を養う豊かな人財の育成をすることを目的といたします。 【手法】
--	--

	近畿地区協議会と連携を図り、子どもたちが好奇心を育める機会を創出するとともに、グッドルーザーの精神を養うための少年少女サッカー大会を開催し、勝ち負けだけに拘らず全ての機会が成長の機会であると認識できることだと幅広く共感していただく大会を実施します。
ブロックによる LOM 支援の 実施内容	1.大阪連絡調整会議を引き続き推進し、各 LOM の課題調査、拡大進捗管理と支援 LOM の報告 2.地域の課題に即した、誰もが参加しやすいブロックアカデミーの実施 3.各 LOM が目指す運動を最大化させる必要に応じたカテゴリー別の LOM 支援の実施